



健康経営を推進する
トラック事業者で組織
するトラック合同安全
衛生委員会は11月20
日、都内江東区の豊洲
ベイサイドクロスで、
第4回「会社と社員の
健康づくりセミナー」
を開いた。

開会に先立ち齋藤敦士サイショウ・エクスプレス社長はいさつで、「各企業における健康経営が浸透しつつある。認定も増加傾向にある中、一方で健康経営ウォッシュという言葉が聞かれ、内部告発による企業の離脱もある。今、健康経営の

トラック合同安全衛生委
健康づくりセミナー開く

意義が問われている。原点に立ち返り各社の取り組みを共有したい」と意欲を示した。

各社の事例発表では、齋藤社長をはじめ高橋伸明丸橋運送社長、鎮目隆雄フコックス社長が自社の取り組み

た施策に取り組んだ。社員同士のコミュニケーションの中で、社員が率先して企画に取り組む姿を見た。健康診断の積極的な受診と脳MRIの助成を行い、早期発見に努めていく」と述べた。

今後の課題だが、自社としていまだできていないことを認識し取り組みでいく」と自社の方向性を示した。

併せて、齋藤社長は、「禁煙運動を推進し、自ら喫煙者が退職する環境整備を行う」

みを披露した。

高橋社長は、「父が胃がんで他界し、従業員が退職後にかんで命を落とした。従業員をどのようにして守ればよいのか考え、健康経営の大切さを知った。社内行事として健康ウォーキングや合宿など運動にウエイトを置い

鎮目社長は、「2020年から健康経営に取り組み、23年に宣言した。トラック事業の健全化には健康経営は欠かせない。これまでに、社員3人の早期がんの発見があり、健康診断受診率100%を目指している。禁煙については反発があり、

た。見せる健康経営を推進すると人材募集への好印象が育まれ、生き生きと活動する企業の姿が示されている」と自社の実践を披露した。当日は、医師で産業医の佐野正行氏を迎え、ディスカッションを行い、課題を共有した。